

令和元年度 第4回医療系フォーラム実験小委員会 議事概要

- I. 日 時： 令和元年1月29日（水） 10：00～12：00
II. 場 所： 公益社団法人 私立大学情報教育協会
II. 出席者： 片岡主査、神原委員、高松委員、山元委員、小原委員、原島委員、中山委員（S）
事務局：井端事務局長、森下 ※（S）はSkypeでの参加

III. 資料

- ① ICT を活用した分野横断PBL 授業の運営マニュアル
- ② ICT を活用した分野横断PBL 授業第2段階のシナリオ（検討用）
- ③ 福本さんのエピソード（処方及び薬歴案）
- ④ 福本さんのエピソード（食事記録）
- ⑤ 福本さんのエピソード（歯科診療録）
- ⑥ 福本さんと家族のプロブレムマップ
- ⑦ 第2段階参加候補者の状況
- ⑧ 募集パンフレット（案）
- ⑨ 第2段階のシナリオブラッシュアップ。資料追加のお願い
- ⑩ ICT を活用した分野横断型PBL 授業 第2段階用シナリオ
令和元年度第3回委員会議事概要
引きこもり壁を崩す（2020.01.10 読売新聞）他

IV. 議事概要

令和元年度第3回委員会の議事概要を事務局から報告した後、資料①「業運営マニュアル」については、片岡座長に一任することにし、4月～5月の第2段階の実験の進め方について、「資料②ICTを活用した分野横断PBL 授業第2段階のシナリオ（検討用）」検討を進めることにした。

1. ICT を活用した分野横断PBL 実験授業 第2段階のシナリオ（検討用）について

本年4月から5月で実験を検討している実験授業の第2段階のシナリオについて以下のように検討しとりまとめた。

<高学年対象のICT活用分野横断型授業の企画概要>

1. 目的と概要

将来が予測できない時代に社会の課題を解決していくためには、答えが定まらない具体的な問題を多面的に捉え、解決を目指すグループ学修が極めて重要である。この授業では、健康長寿社会に活躍できる人材を目指して、保健、医療、福祉介護、栄養の学生がICTを活用した分野横断グループで社会の問題や健康長寿社会の実現を考える主体的な学びの能力を身につけることを目指す。

2. 方法

上記の目的を達成するため、第2段階（高学年）では健康長寿社会を実現するために、多分野の学生とディスカッションを行い、多職種がどのように連携すべきかを考える。

3. 授業の概要

- ① 情報を複数の視点で注意深く論理的に分析する能力や態度（クリティカルシンキング）を身につけることを目標として4年生を対象に実施する。
- ② 医学、歯学、薬学、看護、福祉介護、栄養学科の学生 各2名計12名を対象として6学科各1名の6名で1グループを構成し、2グループとする。
- ③ ネットオリエンテーション実施後に4回のネット授業と自己主導型学修を実施する。
- ④ 1回のネット授業は2時間、授業間隔を最低4日開ける。各グループにはファシリテーター教員を配置する。
- ⑤ 学修項目は学生が決定する。
- ⑥ ネット授業とネット授業の間隔を1週間空け、その間に自己主導型学修を行う。
- ⑦ 学生間で議論を進めるため、ネット会議室を自由に利用できるようにする。

4. 課題について

- ① 課題は、医・歯・薬・看護・栄養・社会福祉の学生に社会の問題を具体的事例の中で考えさせることにした。

- ② 具体的事例として、「ひきこもり」の実際の映像を見せて、6分野の学生がそれぞれの専門職種
の立場でどのように問題解決に向けて対応していくかを考察させることにした。
- ③ 課題の資料として、「貧困、引きこもり」をキーワードとした YouTube の動画を使用して状況の把握と感情移入を行う。
5. 獲得する能力
- ① 情報を鵜呑みにせず、多面的な視点で問題を発見できる。
- ② 社会的な課題解決のために、エビデンスの高い適切な情報を活用できる。
- ③ 多様な知見・価値観と独自の視点を活かした合理的な判断に基づき問題解決策を立案でき、問題解決をするために論理的に思考し、表現できる。
- ④ 自分の意見をわかりやすく他者に伝え、他者の意見を傾聴し、積極的に効果的なグループ討議ができる。
- ⑤ 適切な自己評価とさらに改善する方法を模索できる。
6. 授業の実施方法
令和2年度はオリンピックが予定されていることから、4月に2回、5月に2回で実験授業を行う計画で学生募集の段取りを委員交換で分担することにした。
7. 実験授業の準備
4月から5月で実験を検討している実験授業の授業日程と学修内容を以下のように検討した。
- 授業1：シナリオ提示 プロブレムマップ作成
授業2：プロブレムマップ完成、学修項目の決定、治療ケアプランの検討
授業3：自己主導型学修成果の共有、対応策（治療・ケアを含む）の検討
授業4：説明会 社会的対応についてのリソース講義（ビデオ）
※ 事例として、「日本テレビ News-Zero」の映像（YouTube）を見せて考えさせる。
※ 事例のシナリオ案

福本みどりさん(女性・39歳)

ビデオの提示 30代引きこもりの現実 部屋から出られない

1. 生活歴

みどりさんは、東京の荒川区生まれ、小学校、中学校、高等学校と地元の学校に通った。もともとパソコンが好きで、高校を卒業後はコンピューターが学べる専門学校へ進学。その後はシステムエンジニア（SE）の専門職・正社員として男性の多い職場に就職した。在職中は、仕事優先の生活で不規則な食生活を送り、ガッツリ系の食事を男性社員とともにすることが多かった。当時の年収は500万円ほどであった。当時、家族の経済状況が不安定だったため、家に月15万ほど入れていた。趣味は海外旅行であり、プライベートでも順風満帆な生活を送っていた。しかし、日本のエレクトロニクス関係の企業は不況から、みどりさんの勤務する会社も倒産へと追い込まれた。みどりさんは最初にリストラに遭ってしまった。同時期に、5年間付き合っていた結婚前提のボーイフレンドからも別れを告げられ、ダブルの精神的ショックから、外に出ることができなくなり、家に引きこもるようになった。ネットで症状を調べたところ、精神科を受診した方がいいと書いてあったので、自ら受診し、うつ病と診断された。(資料1. 精神科カルテ) (資料2. 薬剤管理記録)

2. 家族構成

福本みどりさんの母方父方の両親は既に他界。福本みどりさんは一人っ子である。親戚は遠方であることから、希薄な関係である。

3. 身体状態

抗うつ薬や眠剤などが処方されている。アドヒアランスは不良である。自己判断で多く服薬することもあり、その日は、終日ふらつきがある。口が乾くことが多く、たまに歯ブラシをすると歯肉から出血し、冷たいものを飲むと歯がしみる。また 口内炎ができることも多いので最近歯科を受診した。(資料3. 歯科カルテ) うつ病と診断された当時は、食欲が低下し、何を食べても味気なく、おいしいとは感じられなかった。最近は食欲が高まり、弁当やインスタント食品を完食し、時折、甘い菓子を沢山食べてしまうこともあり、体重が増加気味である。

4. 生活 状況

月の家賃は8000円の市営住宅2階の6畳二間に住んでいる。みどりさんが失業した7年前から、生活保護を受給中である。3か月に1度だけ生活保護の担当職員が訪問 に来て、状況を確認している。

【本人の状況】

みどりさんの家には、古いパソコンがあり、朝から晩までパソコンいじりをしている。日中は、漫画が好きで、ネットで古本を購入し、読むことも趣味である。また、自分と同じようなひきこもりの人々とネット上で知り合った。彼らと会話することが唯一、社会とのつながりの糸口である。しかし、その中の3人が最近自殺したことを知り、自分も死んでもいいかなと思うこともある。月1回の精神科と歯科の通院 以外、ほとんど外出しない。失業する前の生活に戻りたいとの思い、家族に余計な心配をかけたくないとの思いをもちつつ、なかなか一歩を踏み出す勇気が持てない。具体的にどうしたら良いかも分からず、当時の写真を眺めることも多い。(資料4. 食事記録)

【母親の状況】 福本花子さん

母親の花子さんは72歳である。もともと腎臓が悪く、65歳から人工透析 を受けている。

そのため週3回透析は、病院の送迎車を利用して通院している。 みどりさんが家に引きこもるようになって

からは、娘の将来を憂い、不安な毎日を過ごしている。

【父親の状況】 福本太郎さん

父親の太郎さんは75歳である。3年前に脳梗塞を発症し、軽度の左片麻痺が残った。最近、要介護3に認定されたことから、みどりさんは、父親の特別養護老人ホームの入所に踏みきった。3か月後に入所する父親は娘と別れるのが辛そうである。

【生活全般】

家族全員は、ネットで購入したレトルト食品やカップラーメンを食べることも多い。家の片づけは、殆ど手が付けられていない状況であり、洗濯もあまりなされていない。

【他に提示する情報】

- ・福本みどりさんの精神科の診療録の一部 うつ病評価尺度 (BDI-II) など
- ・福本みどりさんの血液検査結果 (低栄養、貧血など) 体重変化など運動不足や栄養の偏りが呈する症状
- ・食事内容
- ・福本みどりさんの歯科診療録の一部 口腔内の状態 (う蝕、歯周病、口腔乾燥症の検査結果、パライメックス線写真)
- ・福本みどりさんのお薬手帳

【重要な情報】

(福本みどりさん)

39歳、システムエンジニア (SE) の専門職・正社員、当時の年収は500万円、当時、家族の経済状況が不安定で月15万ほど入れていた、趣味は海外旅行、福本みどりさんの勤務する会社も倒産、5年間付き合っていた結婚前提のボーイフレンドからも別れを告げられ精神的ショックから外に出ることができなくなり家に引きこもる、ネットで症状を調べ精神科受診でうつ病と診断、福本みどりさんは一人っ子、抗うつ薬や眠剤などの薬が処方、アドヒアランスは不良、服薬することもありその日は終日ふらつきがある、たまにブラッシングで歯肉から出血、冷たいものがしみて口内炎ができることも多い、家賃は8000円の市営住宅2階の6畳二間に住んでいる、福本みどりさんが失業した7年前から生活保護を受給中、3か月に1度だけ生活保護の担当職員が訪問、朝から晩までパソコンいじり、漫画が好き、ひきこもりの人々とネット上で知り合った、彼らと会話することが唯一の社会とのつながりの糸口、その中の3人が最近自殺したことを知り、自分も死んでもいいかなと思うこともある、月1回の精神科と歯科の通院以外はほとんど外出しない

(母親) 花子さん

72歳、腎臓が悪く、65歳から人工透析、週3回透析は病院の送迎車で通院、福本みどりさんが家に引きこもるようになってからは、娘の将来を憂い、不安な毎日 (父親) 太郎さん75歳、3年前に軽い脳梗塞、軽い左片麻痺、要介護3認定、特養入所決まっている。

【学修項目】

- | | |
|------------------|----------------------|
| ・うつ病の症状と治療 | ・抗うつ薬、睡眠薬の副作用 |
| ・口腔乾燥とう蝕、歯周病との関連 | ・運動不足と栄養の偏りが身体に及ぼす影響 |
| ・生活保護 | ・ネット上のコミュニティ |
| ・腎透析 | ・脳梗塞の後遺症と要介護認定 |
| ・うつ病と栄養 | |

2. ICTを活用した分野横断PBL実験授業 第2段階の中止について

資料「③ 福本さんのエピソード (処方及び薬歴案)」、「④ 福本さんのエピソード (食事記録)」、「⑤ 福本さんのエピソード (歯科診療録)」、「⑥ 福本さんと家族のプロブレムマップ」、「⑦ 第2段階参加候補者の状況」、「⑧ 募集パンフレット (案)」を確認し、4月、5月の実験を検討したが、学生に近い対象で感情移入ができるのではないかと。として進めてきた「30代引きこもりの現実、部屋から出られない」の映像が著作権上の問題で利用できないことが判明し、小委員会で映像を使用しない授業の設計について検討した結果、感情移入させることが前提となる映像が使用できないことからテーマを含めて次年度に再検討することになった

3. 次年度の研究について

以上を踏まえて、「ICTを活用した分野横断PBL実験授業 第2段階」の検討については、新年度に再度「医学・歯学・薬学・看護学・リハビリテーション学・栄養学・社会福祉学」分野の高学年を対象の健康長寿社会の実現に向けた実際的な解決策を提案・評価する「多職種連携型PBL授業」について、2021年度試行に向けて授業デザイン、授業環境、授業運営等の詳細計画を研究することにした。